

第 153 回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日 時 2024 年 11 月 20 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 00

2 場 所 梅田キャンパス 8 階ホールおよびオンライン (Zoom ウェビナー)

3 内 容

(1) ご挨拶 (15 : 05~15 : 10)

関西大学学長 高橋 智幸

P1、別紙 1

(2) 研究発表 (15 : 10~15 : 30) ※20 分×1 名

発表者 : 山下 太一 (外国語学部助教)

テーマ : 英作文の自動採点における生成 AI の可能性

別紙 2

(3) 学内状況の説明 (15 : 30~16 : 00)

● 「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択
～多文化共修プログラム等を通じ、未来社会を変革する人財を育成～

P2、別紙 3

● 商学部・横山恵子ゼミによる「花と Well-being プロジェクト」について

別紙 4

● 社会学部・池内裕美ゼミによる「オリジナルカップスイーツの開発」について

別紙 5

● 体育会野球部・金丸夢斗選手が 4 球団から 1 位指名

P3、別紙 6

(イベントの案内)

・ 関西大学×法政大学「SDGs アクションプランコンテスト」

P4、別紙 7

・ キッズ向け地域イベント「まち FUN まつり 2024」

P5、別紙 8

(その他会場配布物)

・ グリーンエレクトロニクス工学科リーフレット

会場置き配布

・ 3 研究所合同シンポジウム「先端科学技術と現代社会」チラシ

会場置き配布

・ 関大みらい～ねフェスタ「地域に愛される大学スポーツを目指して」チラシ

会場置き配布

・ 関西大学ニューズレター『Reed』第 78 号

会場置き配布

(4) 質疑応答 (16 : 00~16 : 05)

テーマを問わず自由にご意見・ご質問ください。(音声および Q&A いずれでも可)

※オンライン参加の場合は、随時、Q&A 機能を使っての質問を受け付けます。

※時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

(5) 情報交換会・懇親会 (16 : 10~17 : 00) ※対面のみで実施

4 大学関係・出席者 (予定)

高橋智幸学長、北原聡副学長、竹内理副学長、中尾悠利子学長補佐、山下太一助教(外国語学部)、池田佳子教授(国際部)、横山恵子教授(商学部)およびゼミ学生、池内裕美教授(社会学部)およびゼミ学生、松並久典総合企画室長、小林幸子学長課長、玉村まゆか広報課長 ほか

以 上

【次回のメディア懇談会 (第 154 回) について】

2025 年 1 月下旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

英作文の自動採点における生成 AI の可能性

外国語学部 助教 山下太一

【概要】

英作文の自動採点とは、大規模な英作文データの言語的特徴と人間採点の間にある関係を統計的にモデル化し、そのモデルに基づいてあらたな英作文を採点するシステムである。このようなシステムには、主に 2 つのことが期待されている。1 つ目は、大規模なテストにおいて、人間の採点によるコストを大幅に削減することだ。2 つ目は、人間による採点のブレが大きいライティングにおいて、人間以上の正確な採点をすることだ。しかし、実際のテストや教育の現場において自動採点を運用するためには、高い質を担保する必要があるため、先行研究は人間採点と自動採点間の相関や一致度を調査してきた。例えば、MyAccess! という自動採点システムは、人間採点との相関が .60 から .70 程度である一方、人間採点と自動採点が完全に一致した採点結果は全体の 2%程度だったと報告されている。このような研究は、自動採点システムをテストや教育の現場に導入する際に、議論の土台となる社会的意義の高い研究である。

近年、自動採点に関する研究は、生成 AI の登場とともに加速している。生成 AI の特筆すべき点は、英作文の自動採点のためだけに開発されたものでないにも関わらず、その採点の質が従来の自動採点システムと遜色ないところにある。例えば、生成 AI による自動採点は、人間の採点結果との相関が .70 から .90 程度であることや、人間の採点結果と 50%程度、完全に一致することが報告されている。私の研究では、従来の研究で調査されてきた相関や一致度に加え、心理測定的統計手法を用いて、一貫性・厳しき・バイアスを研究している。例えば、ChatGPT-4.0 を調査した研究では、人間採点と比べて一貫性が非常に高い一方で、採点基準の中間の得点に採点が集中してしまうことが明らかになった。また、現在取り組んでいる研究では、GPT-4o は従来のモデルよりも採点が厳しく、かつ特定の人種によって採点結果が厳しかったり、甘かったりすることがわかった。自動採点における生成 AI の特長を明らかにすることで、テストや教育の現場においてより適切な応用を模索していくことが今後の課題である。

【プロフィール】

2014 年三重大学教育学部卒業、2016 年テキサス工科大学修士課程修了 (Applied Linguistics)、2021 年アイオワ州立大学博士課程修了 (Applied Linguistics & Technology)。その後、トレド大学日本語学科客員助教、公益財団法人日本英語検定協会を経て 2024 年に関西大学外国語学部助教。専門は応用言語学・英語教育学で、これまでに ICT を活用したライティング指導や言語テスト、また応用言語学における研究手法について研究してきた。現在は言語テストに主な関心があり、既存のテストの妥当性や、生成 AI によるライティングの自動評価などを研究している。

以 上